

105 後生戻りの話 ぐしやうもど

どことははっきりわかりませんが、いわゆるこの、何といたしますか、完全に死なんうちにですね、棺に入られて葬式しましてですね、本当は死んでいなかったらしいですよ。ほんで、それを入れたもんですから、そこ、雨が降る日だったらいいですよ。

そこに、いわゆる道から歩いて来る人が、この墓に雨宿りをしてですね、雨宿りをしたらしいですよ。そうしたら、中からですよ、髪を引かれて、髪の毛を引っ張られてしまつて。もうこの人、怖くなつてしまつてですね。まあ、こりゃ何か嘆いておると。

そしてもう、その人がいわくには、

「私はどこそこのもんだがね、実際もう、こう生きてるんだが、こういうふうな葬儀されてしまつて、助けてくれ」って言うてですね。その人また、早速どこそこ、そこの人呼んで、また墓から出したという、そういう話も聞きましたかね。



それが後生戻りというふうな、いわゆる後生から帰つたということだね、後生戻り。

字与座 玉城清一